

第 262 回 狛江市行財政改革推進本部会議会議録

- 1 日 時 平成 25 年 9 月 24 日（火）午前 8 時 58 分～午前 9 時 6 分
- 2 場 所 市長公室
- 3 出席者 本部長 高橋市長
副本部長 有馬教育長
本部員 石森企画財政部長
本部員 小川総務部長
本部員 水野市民生活部長
本部員 平林福祉保健部長
本部員 松坂児童青少年部長
本部員 松本建設環境部長
本部員 小林議会事務局長
本部員 小泉教育部長
事務局 小川政策室長
富田政策室企画法制担当主査
森政策室企画法制担当
- 4 欠席者 な し
- 5 議 題 1. 平成 25 年度の行政評価の実施について
- 6 会議概要

本部長 これより、第262回狛江市行財政改革推進本部会議を開催する。議題 1 「平成25年度行政評価について」事務局より説明をお願いする。

事務局 まず、庁内において実施する内部評価の説明をさせていただく。

内部評価は、所管課において、施策・事業の課題等を再認識し、効果的かつ効率的な推進をめざすとともに、市民に対して政策事業の説明責任を果たすことを目的として実施する。

評価対象についてであるが、内部評価は、例年、施策と政策経費を伴う事務事業を対象としてきたところであるが、今年度については、昨年度の基本計画の改定を踏まえ、事務事業については、後期基本計画に定められた施策ごとに分類して評価対象とすることとし、施策については、現在の市の目標が後期基本計画の施策の推進であることに鑑みて、評価対象としないことといたしたい。なお、部の方針とのリンクも想定しているが、施策と同レベルのものであることから、同様に評価対象としないことといたしたい。

次に、実施時期についてであるが、翌年度以降、外部評価を実施する際には、内部評価の実施から外部評価の実施を経て、結果の反映を視野に入れた予算編成という流れを想定しているが、今年度については、外部評価を実施しないことから、所管課において、評価の結果を予算要求の参考としていただきたく、当初予算編成時期と合わせて実施したい。

次に、実施方法についてであるが、政策室で用意した内部評価シートを、各課に依頼して記入していただき、政策室にて取りまとめを行う。

記入していただく内部評価シートについて、既存のものとの変更点を説明させていただく。まず、「施策との関連性」として、事務事業が、基本計画に定める施策の推進にどのように寄与するのか、その位置付けを再確認する項目を新たに設けた。次に、「期待した効果との比較」として、事業実施の成果について、その結果だけでなく、期待した効果と比較検証する項目を新たに設けた。次に、既存の内部評価シートに設定されていた

「必要性」「有効性」「優先度」の評価項目について、事業は予算計上された時点で、市として一定のものがあると判断していることが前提となっており、結果として「程度が高い」といった評価が大半を占めている結果からみても、評価項目としての必要性が薄いことがうかがえることから廃止する。次に、既存の内部評価シートに設定されていた、指標について、実績・成果を適切に表していないものも見られたことから、今回を機に見直しを図る。最後に、市民への説明責任という観点に重みをおき、市民にとって分かりやすい作りとなるよう努めた。

続いて、今年度の外部評価委員会の活動について説明させていただく。

今年度は、今までの外部評価の実施結果を踏まえ、改めて外部評価のあり方を整理・検討することを考えており、開催時期は10月下旬から5回程度の開催を考えている。

本部員 今年度の外部評価委員会では、どのような活動を行うのか。施策レポート作成のために従来行っていたヒアリングは実施しないのか。

事務局 今年度の外部評価委員会では、市民にとって分かりやすい施策レポートづくりや、効果的な提言に向けた課題等の整理・検討を行う。そのため、施策レポートの作成は行わず、従来のヒアリングも実施しない。

本部員 施策レポートについては、存続するのか。

事務局 施策レポート自体は存続するが、先程申し上げた課題等の整理・検討を行う必要がある。

本部員 外部評価については、事務事業に踏み込んだ評価をすべきとの声も上がっているとのことだが。

事務局 評価対象についても、委員会の中で議論していただきたいと考えている。

本部長 それらの点については、従来の考え方に捉われず進めていくように。

その他ないようなのでこれで第262回行財政改革推進本部を終了する。